

# 東京鋳兼、大阪のネジ会社を買収 緩み防止技術取り込む

2024/05/30 16:00 日本経済新聞電子版 473文字

精密機器用のネジを製造販売する東京鋳兼（東京・墨田）はネジ加工の泰洋産工（大阪市）を子会社化する。買収により、ナイロンを塗布しネジを緩みにくくする技術を取り込む。接着剤を使う一般的な緩み防止加工に比べ化学物質の利用が減り、環境に優しい点に着目した。自動車産業などの需要を開拓する。



東京鋳兼のテクニカルセンター（埼玉県熊谷市）

東京鋳兼が6月1日付で泰洋産工の創業家から全株式を取得する。譲渡価格は非公表。泰洋産工は創業者が2015年に死亡し、親族が株式を所有していた。創業家は取引先である東京鋳兼の傘下に入ることが、従業員の雇用を守る観点から最善と判断したとみられる。

泰洋産工は1965年の設立で、2024年3月期の売上高は約7億円だった。従業員数はパート含め33人。米ナイロック社（ミシガン州）から、ナイロンを塗布してネジの緩みを防ぐ技術についてライセンス供与を受け、自動車向けのネジの加工を手掛けてきた。

東京鋳兼は買収後も、泰洋産工にライセンス供与を続けることでナイロック社と合意したとしている。東京鋳兼の23年12月期の売上高は約350億円。泰洋産工の社長には外部から招く人材を充てる。

許諾番号30099294 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.